

できることを着実に継続して

横須賀市立うわまち病院 小児科 岩岡 亜理

私の場合、形に残るキャリアがあるわけでもなく、よく思い返すのは反省する症例の経験ばかりです。それでも、20年以上医師の仕事の続けることで自分自身が随分と支えられていると感じています。

私は卒後、出身大学の小児科に入局し、初期研修終了後は、主に先天性心疾患の診療に携わりました。医師5年目には、女子医大の心臓血圧研究所にも勉強に行かせて頂きました。今思うと、心疾患を診たいという気持ちばかりが先走り、重症な子ども達の診療という重圧やいい仕事ができないことへの不甲斐なさ、体力不足などもあり、気持ちと身体が乖離していたようです。何れ基礎研究をしてみたいとも考えていたため、医師6年目に大学院に進学し、先輩から紹介された研究所で数年間マウスの心筋細胞に関わる研究を行いました。基礎論文を読んだり、基礎研究員と仕事をしたりする経験は興味深いものでした。ただ、元来動物が好きだったこともあってか動物実験には馴染めず、大学院修了後は小児循環器の臨床に戻ることにしました。大学院生の間に結婚し、東北と関東地方の別居生活をしていましたが、これを期に出身地の神奈川県に戻ることにしました。紹介も当てもない中、神奈川県立こども医療センターの循環器科の先生に直接連絡をし、ほどなくして面談可能の連絡を頂き、翌年から働けることになりました。臆せず連絡してみるものだと思います。こども医療センターでは、大学とはまた違う小児循環器の診療を経験しました。進んだ胎児診断の下で、他職種のスタッフが連携して子どもを助けるということ学びました。また、成人期の先天性心疾患の診療に興味を持ち、移行期医療について学びました。この頃、年齢は30代後半になり、これまでのように体力的に無理が利かなくなりつつあり、私に継続してできる仕事は何であろうかと自問するようになりました。

現在、横須賀のうわまち病院で10数年仕事をさせて頂いています。小児科一般診療とサブスペシャリティーの分野の診療を行っています。グループ診療で当直明けはオフになり、私の様に10年目以上の医師にも体力的に診療を続けやすいです。また、こういったシステムだからこそ可能であったことといえば、私の場合は妊娠・出産・子育てです。40歳頃から拳児希望を持ち希望を周囲に伝えて、治療にのぞみました。年齢的に妊娠・出産は不可能かもしれないと思い、仕事を辞めて治療に専念する決心はつかない一方、周囲にかける迷惑を考え、葛藤もありました。結局、当直もしながら仕事は続け出産することができました。切迫早産で長期入院した際などは、周囲の先生方にだいぶ協力頂きました。高齢で治療を経て出産したことで、現在の生殖医療のことや出産を望む女性の切実な気持ちを知りました。

出産後は子どもの成長を毎日観察することで、想像以上の発見がありました。育児休暇中には、市営の子育て支援センターに我が子連れて行き、保健師や来所している親子と会話することで、一人きりの育児にならない安心感を得たこともあり、育児に関わる福祉にも関心を持ちました。

集中治療室でモニター音を聞いていると気持ちが落ち着いていた私が、重症どころか元気な子どもを診ることが楽しいと思うようになったのは、年齢のせいもあるでしょうが、育児によるところも大きいと思います。

これからも、子ども達と子どもに関わる人々の役に立てるように、医師として自分にできることを継続していきたいと思います。

【著者略歴】 岩岡 亜理 (いわおか あり)

1998年 東北大学医学部卒業

同年、東北大学小児科学教室入局

八戸市民病院小児科で初期研修

2007年 東北大学医学研究科大学院卒業

2007年～2009年 神奈川県立こども医療センター 循環器科シニアレジデント

2009年より、横須賀市立うわまち病院小児科勤務

4歳、2歳の子どもたちと会社員の夫と猫と暮らす。

～男女共同参画推進委員会より～

「医師の仕事が続けていくこと」

医師の仕事は小児科一般診療・専門診療・臨床研究・基礎研究・教育などがあります。小児科一般診療はたいていの疾患の診療と専門診療へのトリアージが基本にあります。次に専門分野の臨床を経験してサブスペシャリティを持つことが大きな武器となります。臨床医がある時期に基礎研究を数年経験することでリサーチマインドを学び、その後の臨床研究に生かすことが可能です。また基礎研究を行う医学研究者は、若い時期に臨床を経験することで疾患によりそった研究の発想につながります。

女性医師は妊娠・出産・育児によって大きな転機が訪れます。育児によって得られた経験や発見は小児科医の立派なキャリアになります。どのような形でも医師の仕事が続けていけば、様々な経験をした女性医師は貴重な存在にちがいません。

本リレーコラムの筆者は専門診療・基礎実験、胎児診断・移行期医療も学び、10年以上たって小児一般診療、専門診療、子育てと多様なキャリアを積み、仕事と育児を楽しんでいる素敵な女性医師です。

